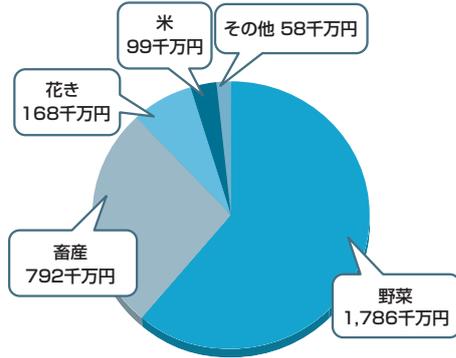




深谷市の農業

農業産出額は、農家が稲作や野菜栽培、花き栽培、畜産などの農業生産によって得た農畜産物と、その農畜産物を原料として作られた加工農産物を販売した売上額のことです。6月に農林水産省が公表した「令和元年市町村別農業産出額（推計）」によると、深谷市の農業産出額は、290億3千万円で、深谷市の農業がとも盛んなことがわかります。生産額の内訳

令和元年 深谷市農業産出額（推計）



農林水産省大臣官房統計部 令和3年6月15日

は、野菜178億6千万円、畜産79億2千万円、花き16億8千万円、米9億9千万円と続きます。なお、野菜の生産額は全国第6位です。

深谷市の畜産

畜産産出額は、鶏（主に鶏卵）25億3千万円（約32%）、肉用牛20億6千万円（約26%）、養豚17億6千万円（約22%）、乳用牛（主に生乳）14億9千万円（約19%）で、畜産バランスよく発展しています。また、市内には畜産農家自らが販売している直売所もあり、畜産が身近に感じられる地域でもあります。

畜産の豆知識

より畜産に親しみを感じてもらうため、豆知識を紹介します。



【鶏】

「鶏」には、「採卵鶏」と「肉用鶏」があります。「採卵鶏」は文字通り鶏卵を産む鶏です。150日齢ほどで卵を産み始めます。市内の農家は、餌や鶏の品種に工夫を凝らし、丈夫な鶏を育て、おいしい卵をお届けしています。

また、埼玉県には県が作出した

オリジナルの肉用鶏「彩の国地鶏タマシヤモ」がいます。タマシヤモは、量販店等で一般的に売られているブロイラーの鶏肉とは違い、歯ごたえがよく、コクがあり、うま味が豊かな地鶏です。ブロイラーの飼育期間が約50〜60日程度であるのに対し、タマシヤモは150日以上で、広々とした運動がよくなる環境で育てられています。深谷市にもタマシヤモを飼育している農家があります。



【肉用牛】

肉用牛は、「肉専用種（和牛）」「乳用種」「交雑種（F1）」の3種に分類されています。

和牛である黒毛和種は、日本の固有品種で、脂肪交雑（いわゆる「サシ」）が非常に優れた「霜降り肉」としておなじみです。「深谷牛」や「武州和牛」も黒毛和種です。

和牛農家には、母牛を飼養し子牛を生産・販売する「繁殖農家」、子牛を購入し育てて出荷する「肥育農家」、繁殖と肥育の両方を行う「一貫農家」があります。市内には、この一貫経営を行う比較的大規模な和牛農家が見られます。



【養豚】

豚には、ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種などのいくつかの品種があります。市販の豚肉は、そのほとんどが繁殖性や食味等を考慮し、これら3種以上の品種を掛け合わせて生産されている三元豚です。しかし、黒豚はパークシャー種という品種の豚で、純粋種で生産されています。産子数が少なく、肥育期間も長いため、生産量は少ないですが、脂肪に甘みを感じるとてもおいしい豚肉です。市内には「彩の国黒豚」を生産する農家があり、販売もされています。



【乳用牛】

白黒柄のホルスタイン種に代表される乳用牛は、乳を生産するための牛です。人間と同じで、出産したメス牛からしか乳は生産されません。2歳位で初めて分娩をし、搾乳を開始します。1日1頭あたり、20〜30kgの乳が搾れます。

県の公共牧場である「秩父高原牧場」では、酪農家から子牛を預かり、たくさん乳が搾れるような丈夫な牛に育てています。